



一 体園東尚卷下目録

- 中一 文字せんまくのり
- 中二 たまごれちよて念だげたれり
- 中三 天をかさにまきこまひり
- 中四 中子ととりてめいんどのひまひり
- 中五 今が川はよてころがまよふ神とらせらるり
- 中六 一休おまれまけりんどうあまらるり
- 中七 湯の浦よて極女とらあもんどうれり
- 中八 甲斐のほよてあつはもんどうのり
- 中九 せきまんの當話のり
- 中十 極樂ははらり
- 中十一 一休の居り給ふ時と酒の同巻のり



門へ 18
通 2010
巻 3


才十二 鑿の意の字の類をて約款と改めし
才十三 一体固束下向并時改改とて山伏と回巻の
才十四 相約

下巻終

下巻

【中一】 文字せんさくのり

一体はしづひのわうとあやうぢやうれたためそあ
をまはりあがるまへにせ川とあるとてこわうとあは
りあはせしてあやうぢんはつらうとて一体はPと
あるははてせばあやといふ文字をうらうとあはにい
とあはく中にこめをうくといふまをいひあはるま
ごよほいれをくあやといふあはあは中(こめをい
あるくあはるまをいなるまといふあはあはあはあ
ずいといめとりあはるまといふあはあはあはあ
よてあはるまをいひあはるまをいひあはるまをい
ひあはるとたづひPとあはあはあはあはあはあはあ

文字よはきこひしうあまじりう大さうしあ人のう
 りうさうせしむありきりこりまがハ文字い
 まいしすみず米^い食などの文字ハあまこと色うあ
 りまなうしとありま人のうあまこのせいきんあ
 ちうこめをあれたうにいしきりやまううはにてし
 ちゆまハあちうさこのていしあまはまのまはた
 志うれまはば文字いまこいしあまのハはくまこ
 やいしきもたくもてん路くまこあま志あん志路く
 どきまひあ一路くハあまこいしあまひてまらうあま
 て人こよすめぬひちうまはま色あ一快出まはらり
 くれどまんのうらうおまうをあうととあうせ
 路ハ  ちのこまはあたアとてこまあ



日まにゆきとるをうたりに米をゆきたりとこころ
給ふと若てとらうてりきりあつたれゆきんき
て海へますすまゝに海へゆき色なきるゆき
ゆきん流るよ何とあきて色らちとあき給ふゆ
あそくあそくとさうひるまればさうたれよ
又ふんころいん今のこころ笑といふまゝに
いぬとく我をゆきとらふ文字なるゆき
危んよひろがると目危んよ志まじたまゝ
危きおとけつりよ竹よりよ木よりよ
あそくあそくあそくとさうひるまればさう
あそくあそくあそくとさうひるまればさう
あそくあそくあそくとさうひるまればさう
あそくあそくあそくとさうひるまればさう

ちいさな大かいらはあごとくうたりに米をゆき
おどけてくまひるれぐんこどあつとらうひ給ふ
そゆきよまゝにゆきのまゝうたりに米をゆき
くういふまゝにゆきのまゝうたりに米をゆき
いとあそくあそくとさうひるまればさう

中二 たまごのちもて金のたまごをたるとり

一体いもてこころまゝに海へゆき山城廻見のためたら
出させ給ひくたたまごといふはあそくあそくとさう
ち号ハ酬恩庵とやゆきあそくあそくとさう
くちうちうちうちうちうちうちうちうち
あそくあそくとさうひるまればさう
あそくあそくとさうひるまればさう

てゆくまがてあまこころのゆたかきしおれかたさゆかり
 志がうぶをかじしと海のうらやまのすく人そつたを
 六七人まていよあまこころあまひのれうちよあまを
 又ゆきあまたへありゆきしよへゆきしよへあま
 とそころし一体にれよあま一りしはあまのれよあま
 だしいらあまたれよあまのあまのあまのあまの
 出路たまののあまのこれあまのあまのあまの
 うらまのあまのあまのあまのあまのあまの
 とごころのあまのあまのあまのあまのあまの
 まづあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの



からうろと一れがと二八ぶらうとからせれいらもやう
ぐんびきりたるうろぜんとあうらまて一体の由れどち
うあゆいよれは一体と一色さうたたまらずたる
うろたるせれとせれとのせまうば色あくさきう
せぬとせうくあうらまて一年のちこちあし
からうもせもらうとよまじよの酒とすめたくまらん
とたよじまて由れどちうあゆいよれ一体らうと色
おどろせ路りすまじのせれい又たたるこのいま
ひたれどいまもあせうくせぬとつよまらばよ
とせよ一せうくばらとあうらまてはちのゆめど
さいれらあびらと一入もせうくすまぬくあくたせ
一たぶらうのかじなうと一うだんせぬとあゆいよれ

よて海と一あゆめぬりたるごまかなるつひるせとせ
よとひめらうとせらだんのきんせとせうらひかなめた
と一体らうとせよまのこまとせうたたるこせうせ
とらうたまじとせくけらのせうくあまとのゆまら
とせくせうせぬとせよよまかのくとあせけまバ
西のせれとせいよとかのちとせうてとせとせ一体と
ていせがとけのせうよまはせぬのゆくのせくせのもの
よとらまれ路りんこのむじまよとせぬぬのなまら
て一町たうとせとせはく一体はうらまらぬゆめ
たせぬとせとせよまらうとせうらぬの時一体の
せまらぬひたれとせよまらうとせうらぬは
かりもせぬとせとせ一体とたよらうとせとせ



題茶釜

有口不言全体圓
并吞大海江河水

不離色相絶諸縁
吐出趙州一味禪

題黃鸝

鳥亦說經似度他

樹頭樹底妙音多

林間花若諸菩薩

中有黃鸝小釈迦

或人不動ぬまれ古佛と秘蔵して安んじ

をり一体みればはひよはひよのまはる
時彼不動と出候してはて一絶と候し給ひ



全ま身た真ま黑くろ林はやし明あき王をう
一いつ生せい不ふ犯はん無む念ねん者者

生なま付つけ片かた輪りん目め口くち張ちやう
去ま何た處た固こ護ご摩ま堂どう

題一谷

步あ落ふ平へい家け無む數すう兵へい
敦あつ盛せい熊くま谷や進しん遲ち速そく

九く郎らう冠かん者者大おほ高こう名な
一いつ朝あさ懸か向むか上うへ時とき聲こゑ

落髮之時

東とう山さん々々下げ玉ぎよ毛もう頭とう
移うつ得と天てん台たい真ま羅ら漢かん

今け日にち出で家け作さ比ひ丘こ
平へい生せい可か望ぼう一いつ時とき休やすみ

題男根

我わが此この貪あま裸はだか八はち寸すん強つよ
一いつ生せい不ふ觸ふ美み人ひと手て

夜よ来きた抱いだ汝なんぢ卧ふ空くう床とこ
犢うし鼻び禪ぜん中ちゆう日にち月げつ長なが

題那須與一

與よ一いつ源げん平へい第だい一いつ弓ゆみ
塞ふさ自みづか祈いの念ねん鞍あな馬ま上の上

判はん官くわん召めい道だう射しや成せい功こう
七しち一いつ花はな八はち一いつ裂さ扇あふ真ま中ちゆう

題宇治川先陣

賴らい朝てう大だい將しやう秘ひ藏ざう馬ば

宇う治ぢ川がわ先せん陣ぢん給たま之ま

生食前非磨墨後

梶原源太一鞭遲

題蚕

垢耶塵耶是何物

元來見來更無骨

雖為人喰十分肥

瘦僧一捫没生涯

歲且

有錢有酒有金銀

今歲初成大德人

當寺他山若僧達

未申案內住來頻

戀

日夜思君長不忘

夜深戀慕卧空床

夢中携手欲相諾

被駭曉鐘又斷腸

同

花咲花而易老花

花顏花盛夢中花

花時花亦可情重

花落花過誰向花

同

生天成佛閣思君

灯下吟詩瘦十分

有力秋風不應拂

胸間鎖斷楚山雲

題性灵棚

飯在中央盛曲金 饅頭壹味鉄崑崙

慇懃三洒性灵木 水出推流地狱門

布袋贖

布袋依袋眠

工夫每一字

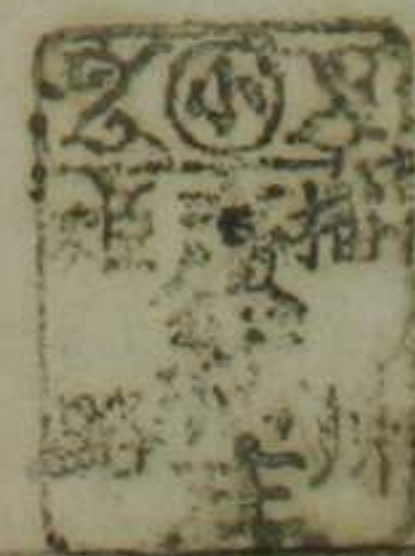
人言是坐禅

大食腹便々

題瀼門

两脚山中有小池

東西南北草離々



風白浪起烟波 一目朱龍出入時

寬文十二年歲次上子季春吉辰

押小路通寺町西江入町

書林巖津喜兵衛尉統粹

